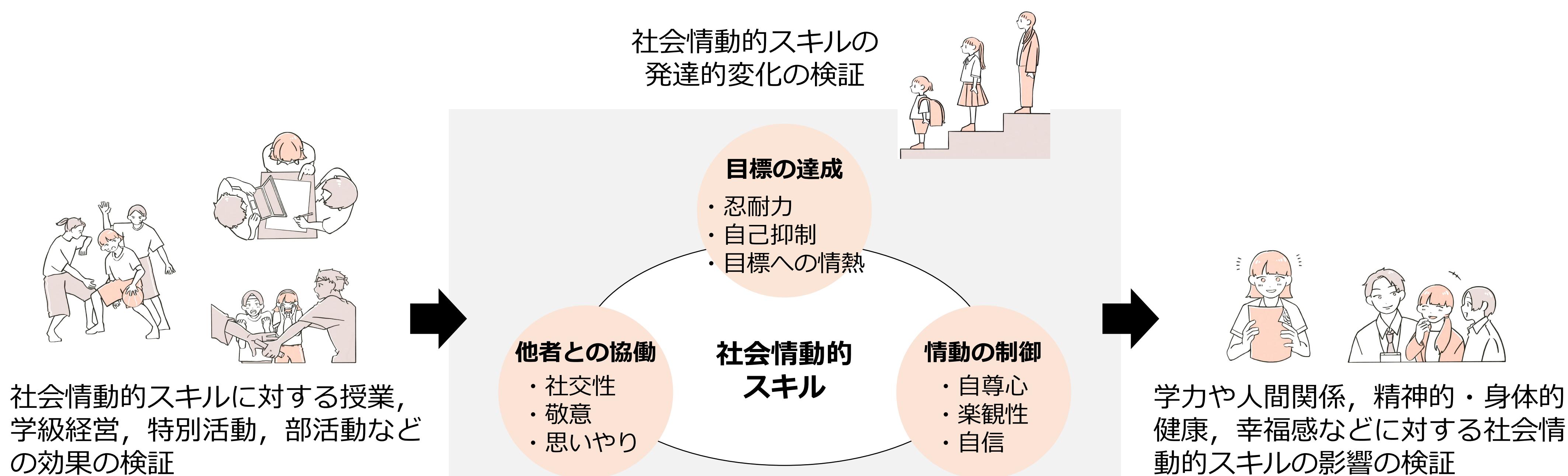


社会情動的スキル研究拠点

拠点長：鈴木 雅之

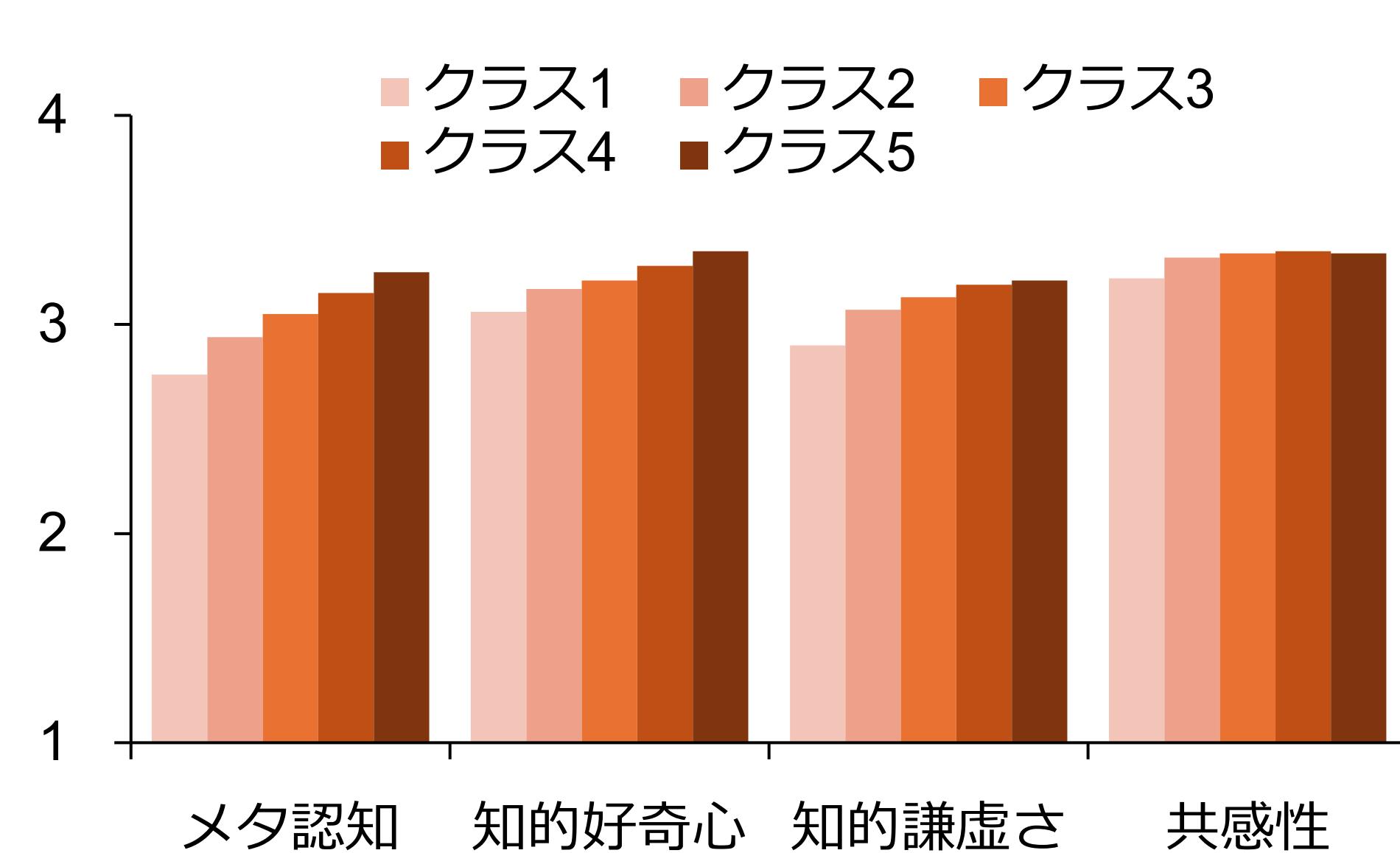
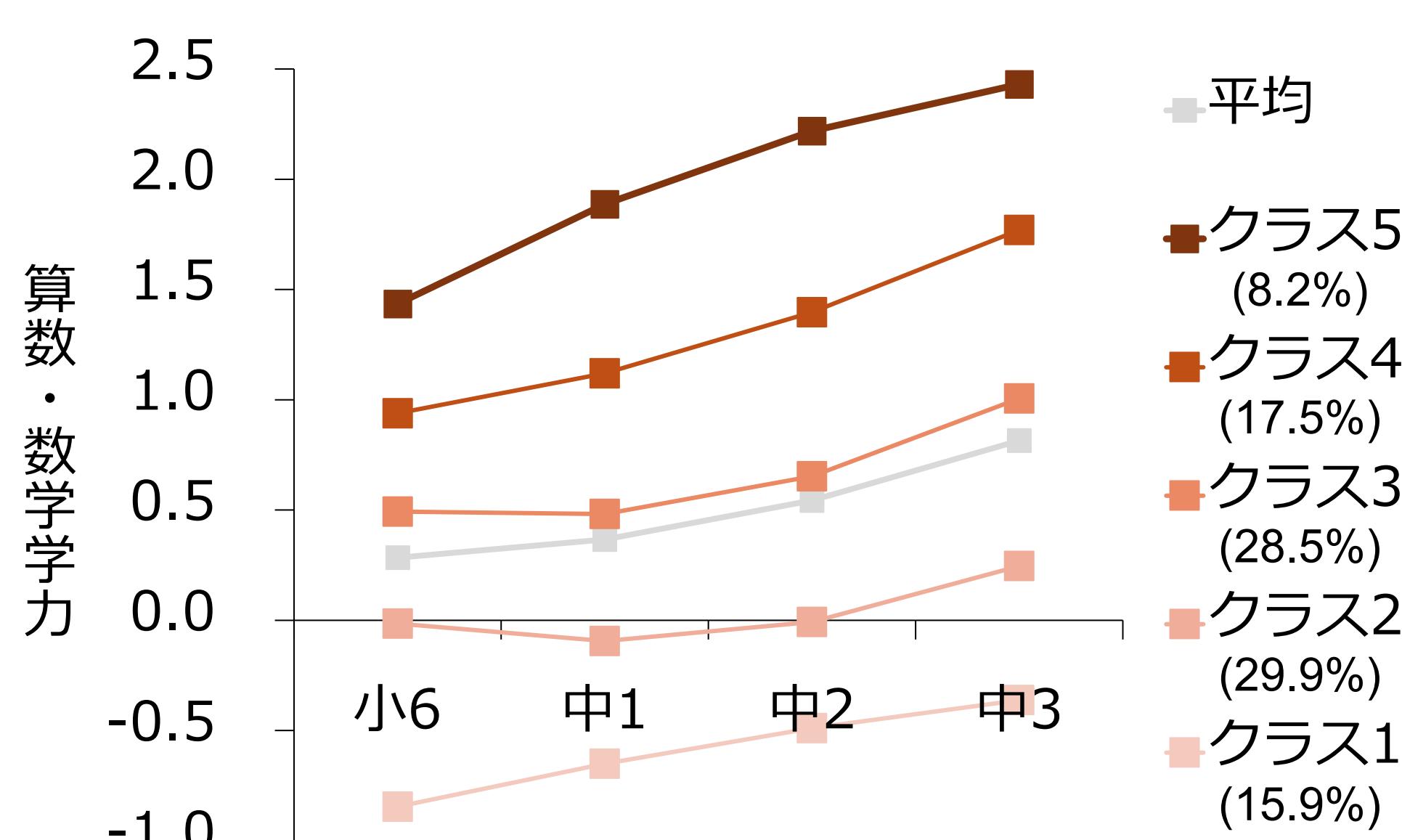
メンバー：久保 尊洋，高本 真寛，藤原 寿幸

社会情動的スキルの発達的变化、学校教育における育成方法、将来の学力やウェルビーイング等への効果について検証し、子どもの社会情動的発達を促すための方策について知見を得ることを目指す



学力と社会情動的スキルの関連

社会情動的スキルの高い児童生徒ほど、その後の学力の成長が顕著



横浜市学力・学習状況調査（2022～2025年）のデータを用いて、2022年度に小学校6年生だった児童を対象に分析。
潜在クラス成長分析によって5つのクラス（グループ）に分類し、小6時の社会情動的スキルを比較。

特別活動の効果

- 小学生を対象とする縦断調査
 - 役割意識を持って運動会の準備・練習に取り組むことで、ソーシャルスキルやグリットが高まる

部活動の効果

- 中学生を対象とする縦断調査
 - 部活動に自律的に取り組むことで、学習にも自律的に取り組むようになる
- 国立教育政策研究所との研究
 - 中学校での部活動経験が高校以降の社会情動的スキルに与える影響の検討

学級経営の効果

- 小学生を対象とする調査
 - 学級目標の達成に向けて自律的に行動している児童ほど学習意欲やグリットが高い

教師やクラスメイトの支援の効果

- 小学生を対象とする調査
 - 自律性を促す支援が学力や動機づけ、ウェルビーイングを高める

学級経営、授業、特別活動、部活動などの個別の効果にとどまらず、統合的な効果の検証、包括的な支援方法の提案を目指す